

## ■公開質問状の内容

### 質問事項

質問事項の回答は、4月8日(水)までに、一般社団法人奈良県聴覚障害者協会事務局あて、メール ([since1948-nda@kcn.jp](mailto:since1948-nda@kcn.jp)) もしくはFAX(0744-29-0134)までお願いいたします。

#### 1. 手話言語条例の制定について

ろうあ者が家庭や学校、地域社会などあらゆる場面で手話を自由に使える環境を作るためにも、鳥取県のように「手話言語条例」が必要と考えています。

奈良県における「手話言語条例」を制定することについて貴殿のご見解をお聞かせください。

手話が言語であることは障害者基本法で認められているのですが、いまだ手話に対する理解が十分であるとは言えません。聴覚に障がいのある方の日常生活の向上や、社会参加の推進には手話の普及は欠かせないものであり、手話によるコミュニケーションや手話の使い易い生活の実現を図るためには適切な整備が必要と考えます。

#### 2. 奈良県の就職事情

奈良県内にある奈良県立ろう学校は在校生数が全国的にもトップクラスといわれるほどよい評判をいただいています。しかし、卒業後は奈良県内の企業の求人が少なく、また大学等進学校も少ない状態で、やむを得ず他府県に転出してしまいうケースが年々増えてきています。

また、県内に就職している聴覚障害者やこれから県内に就職を考えている聴覚障害者も県内に求人が少なく、求人があっても「電話ができること」が条件で聴覚障害者は門前払いという企業も少なくありません。このような状況に対して、貴殿のご見解をお聞かせください。

障がいをもつ方が、職業を通じて社会に参加することは、大変重要であると考えています。県内の産業や育成や雇用、創出を図っていくためには、障がいをもつ方が働きやすい環境を整える対策のいっさぐの充実が必要と考えています。

#### 3. 手話通訳者の働く場の確保

厚生労働大臣公認の「手話通訳士」という資格があります。しかし現在、厚生労働大臣公認である手話通訳士を取得してもそれを活かせる場面が極端に少ない状況にあります。せつ

かく取得した資格を有効に活用するためにも、手話通訳者が業務として働く場所を拡充することが急務であると考えています。貴殿のご見解をお聞かせください。

手話と普及させるために、手話通訳士等の専門職としての位置づけを明確にし、資格の活用や社会的に認められることが重要であると思います。行政機関や福祉関係団体はもとより、企業等においても聴覚に障がいのある方に対する理解を深めるその能力を活かしシステムがより必要であると考えます。

#### 4. 高齢聴覚障害者の支援

現在、高齢者支援のために介護保険法等が施行され、それに基づく介護保険事業が展開されていますが、どれも聴覚障害者には利用しにくいものがあります。老人ホーム等に入所された高齢聴覚障害者もほとんどが健聴者との共同生活になじめず、心細い余生を過ごしている状況が報告されています。

高齢聴覚障害者という、高齢者全体で見ると少数派ですが、聴覚障害者も介護保険料を支払っているのです。聴覚障害者のニーズにあった介護保険サービスを受ける権利を有していると考えます。このことについて、貴殿のご見解をお聞かせください。

介護保険制度は社会保険であり、すべての加入者や介護の状態に応じて必要のサービスを受けられることは当然のことです。障がいのある高齢者が安心して生活するため、そのニーズにあったサービスの確保に努める必要があると考えます。

#### 5. その他

聴覚障害者福祉施策について、特に取り組みたいとされていることをお聞かせください。

防災対策や、災害時の支援策が必要だと考えます。

最後にご氏名をお願いします。

小城 世智